

血管内手術患者に対する看護必要度のあり方は適正か？

～血管内手術と開頭手術の直接看護時間の比較～

塚田 晃裕¹⁾ 田村 実由記¹⁾ 見田野 直子¹⁾ 三ッ倉 裕子¹⁾ 高橋 陽子¹⁾
美原 盤²⁾

1) 脳血管研究所附属美原記念病院 看護部

2) 同 院長

[はじめに] 28年度診療報酬改定では、7:1病棟の維持に対し重症度・医療・看護必要度の要件が高いハードルとなっている。この要件に関しては臨床現場の感覚と異なるものもある。今回、脳神経外科における全身麻酔下の血管内手術患者と開頭手術患者の看護必要度について検討した。

[方法] 全身麻酔下の血管内手術を実施した2例、開頭手術を行った1例において、第3病日から第7病日まで、各病日の直接看護時間を調査した。なお、業務区分は国立医療・病院管理研究所医療政策部の看護業務区分表を参考に、当該病棟の看護業務に対応するように修正して使用した。

[結果] 血管内手術患者と開頭術患者に対する直接看護時間は、それぞれ第3病日は418分、408分、第4病日は409分、378分、以後、第7病日まで明らかな差がなかった。

[結論] 血管内手術患者の重症度・医療・看護必要度に関しては開頭手術患者と同様に評価されるべきである。